

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 40 回会合 発言録

2023 年 10 月 2 日

【加藤】 それでは、そろそろ始めたいと思います。活発化チームの第 40 回会合ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。今お示しいただいているアジェンダに沿っていつものようにスタートさせていただきたいと思います。

まず、政府から（のご報告ですが）、今日は国際戦略局の方は欠席ということで、もし望月様ほか、総務省の方、何か御存じなことでアップデートいただくことはありますでしょうか。

【望月】 望月です。お世話になっております。

【加藤】 すみません、突然振りまして申し訳ありません。

【望月】 とんでもございません。今、私、この場で発言すべきアップデートというのは持っていません。いろいろもちろんアップデートはございますけど、この場で皆さんに申し上げるような内容のアップデートは、そういう意味ではないです。

【加藤】 特に細かい点でも、このグループに聞いていただくなり、指示していただくようなことも含めてないですか、今。

【望月】 そうですね。展示の関係は幾つか実際に展示いただく方とお話をさせていただいていますので、それ以外で皆さんにこの場でお話をするような話は特にはないです。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。もし、引き続き会議中に何かお気づきの点等ございましたら御指摘いただければと思います。

【望月】 はい。

【加藤】 それでは、引き続きまして、順調に忙しく、もういよいよ来週になったというか、今週末からの御準備を進めていらっしゃるというふうに想像しております。

では、次に MAG からということで、河内さん、いらっしゃいますか。

【山崎】 河内さんも御参加じゃないようですね。

【加藤】 河内さん、欠席ですか。分かりました。ちょっと聞いた、河内さんから別のときに聞いたことを申し上げると、もう、MAG のやり取りの中から、(国連 IGF 事務局) チャンゲタイさんからの情報で、6,000 人ほどの何か登録があって、恐らく京都には 4,000 人ぐらいいらっしゃるんじゃないかというふうなお話が、ちょっと私、メモを取ったわけじゃなくて正確にはあれですけども、そういうことを聞きました。特に、MAG からは最後のところで何か打合せをしているというふうなことは聞いていな

いですが、そういう情報があったということを知りました。もしかして、今日は、河内さんはずっと参加できないということでしたか。

【山崎】 いや、特に御都合を伺っていないんですよ。

【加藤】 そうですか。

【山崎】 ちょっと前に、前の回で伺っていたんですけども、原則毎回出るので打診は不要だというふうに御本人から伺いまして。

【加藤】 そうですね、はい。

【山崎】 それ以来ご都合は伺っていませんでした。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 事務局としては、いらっしゃると思っておりました。

【加藤】 そうですね。実は今日も何回かやり取りをしていたので、承知しました。後で多分参加するかなというふうに思いますが、お待ちするというので次に移らせていただきたいと思っています。

次が、日本 IGF タスクフォースからの報告ということですけども、これも前村さんはいらっしゃらないですかね。

【山崎】 今日は海外出張中。

【加藤】 出張中ですね。

【山崎】 特にアップデートはないということです。

【加藤】 山崎さんから特にないですか、今。

【山崎】 はい。特にタスクフォースの会合は開かれていませんので、進捗がない状況です。

【加藤】 そういう意味でちょっと、私からの追加ということと言いますと、タスクフォースが開かれていないということで、ワーキンググループで最後に、京都で発表される方の調整をしたらどうかというようなやり取りがあったんですけど、これもまだ特に関心されずにいます。

それから、タスクフォース自身の運営委員会は開催されないまま今まで来ているということで、今のところ、前村さんからもそういうメールがありましたけれども、京都でどうすると。それから、5つの団体以外の団体に声をかけるというのも、現状、進んでいないということだと思います。

したがって、来週の京都以降、タスクフォースをどうするという話も特に関心がないということで、それが、今現状、進展がないということです。

もし、タスクフォースに関して御質問があれば、多分、山崎さんもしくは私がお答えできると思いますが、皆さん、いかがでしょうか。特にございませんか。

本田さん、お願いします。

【本田】 ワーキンググループ運営委員会、どうも開催されていないというのは、今後は開催される見込みはあるんですか。今後の見通し。

【加藤】 何とも言えないですが、山崎さん、どう思われますか。このままでということではなくて、少なくとも京都の反省会とか何かあるのかなと思いますが、何かをやるというやり取りは今のところされていないというのが私の理解なんですけれども。

【山崎】 はい、加藤さんの理解どおりですね。ですから、何か今後誰かに対して働きかけなきゃいけないとか、何々をするということになれば、もちろん、会を開くとかというふうになると思いますけれども。どのように会員を勧誘したらいいかというところで行き詰まっていて、なかなか行動に出られていないというのが現状です。

【加藤】 現実には、今からまた会員を勧誘するというのではなく、京都以降、このタスクフォースの活動をどうしていくかという方向に動いていくのかなというふうに思うんですけれども、その話、いずれも特に進展がないというのが現状です。

すみません、本田さん、お答えになっておりますでしょうか。というか、何も決まっていないということが今のお答えなんですけれども。

【本田】 後ほども、今後、本チームの今後というのもありますので、ちょっとかぶってくる内容かと思いますが、一つの意見としては、タスクフォースの構成員でもあるわけなので、我々、我々というよりは、このチームとしても、活発化チームとしてもどうしたいのかというのは提案をしていくべきかな、というふうには思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。後でも簡単に触れますけれども、まだ今日時点でタスクフォースを含めて動きが見えないのと、それから、京都会議以降ということで、活発化チームのほうは、前回、私もちょっと、頭出しじゃないですけども、問題提起はしましたけれども、具体的な議論は京都会議以降の場で御審議いただきたいというふうに思っております。

ということで、ほかに御質問ございますか、タスクフォースに関連して。まさにここに書いていただいたとおり、活発化チームとしてもタスクフォースに対して、また、活発化チーム自身をどうしていくかということの提案なり、検討をしていくべきだというふうに思います。

もし、タスクフォースに関して御意見とか御質問がなければ、河内さんが今参加されたということで、ちょっと戻って恐縮ですけども、MAG からの御報告ということで何か御存じのことがあればお願いしたいと思います。河内さん、よろしいでしょうか。

【河内】 遅れまして、すみません。先週、MAG のバーチャルの会合がありまして、そのとき、事務局が言っていたのは、その時点での登録者数は 5,300 人と言っていましたが、今朝、もう一度チャングタイに確認したら、今朝の時点では 6,100 人ということでした。そのうちどれぐらいが京都に来るかとい

うところは、はっきりは言っていなかったんですけども、4,000人以上は京都に来るんじゃないかというふうに言っていました。

MAG の先週の会議では、メインセッションのスピーカーも最後の最終でまだ全員決まり切っていないところが幾つかあるのを、もう最終で、もうほぼほぼ決まってきたというような報告がありました。

さっき、今日、IGF のページを確認したところ、先週までは 8 月 11 日時点でのプログラムが載っていたんですけど、今はもう 9 月 29 日付のプログラムに変わっていました。どれくらい大きく変わっているかとかは、ちょっとそこら辺はまだこれから見てみないと、細かく精査してみないと分からないんですけども、多分、恐らくこれで最終になるのかなという感じでした。そんなところです。すみません、あんまり大した情報はないんですけども。

あと、ビザの話は、何かアフリカ、特にウガンダの人が何人か拒否されたとかと言っているとか、本当かどうかちょっと、聞いた話なんでどこまで本当か分からないんですけども、何かインド人とかいろんな人が、ビザが心配だとかと言っていたので、その心配だと言っていたインド人の彼女に、ビザは取れたかって聞いたら、8 月に申請して、もう取れたから大丈夫って、問題だと言っているのはその一部のアフリカの人たちだけじゃないかと彼女は言っているの、そんなに大して大きな問題ではないんじゃないかと、大ぶりですけど、考えております。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

河内さんへの御質問ございますか。皆さん、いかがですか。

この 6,100 人の登録のうち日本はどうなんでしょうか。日本が少し少ないというようなのがあったんですが、それは、多分、数えたわけじゃないので分からないのかな。リストの中に国のあれがありましたよね、どの国というのはね。

【河内】 登録者数、登録者の名前全部載っているじゃないですか、レジストレーションリストに。あの中から日本人らしき名前を探すという手はありますけど、事務局に聞くという手は、事務局は把握しているかもしれないですね。

【加藤】 そうですね。もう、今さら、かなりファイナルミニッツなのであれですけども、日本からもかなり登録していただいていることは期待していますけれども。

【河内】 でも、先週の水曜日とか木曜日には 5,300 人だったのが、今日、6,100 人になっているということは、最後の追い込みで登録している人が結構多いのかなという感じがします。

【加藤】 そうですね。あと、9 月 29 日付のプログラム、新しいのになって、エクセルか何かのシートが少しアップデートされた。形式も変わってということですね。

【河内】　そうですね、エクセルも載っていますけれども、何かインタラクティブなやつもあって、今、そこ、山崎さんがクリックされると多分エクセルになっちゃうんですけど、そっちじゃないほうをクリックすると、そのすぐ下ですね。

【加藤】　今の IGF 2023 のところですね。

【河内】　そうです、それ。そうすると、こういうインタラクティブなやつが出てくる。これ、何かいつもそうですよね、毎年。

【加藤】　そうですね、はい。

【河内】　どうしても UTC の時間から変わらなくて、上の updating your locale というのを押しても変わらないんですけど。ちょっと分からないです。何かシステムがどうもちょっと、時々、しばらくたってからアクセスしてくださいみたいなエラーになったりとかするので、たくさんの人が一気にアクセスしているのかもしれないです。ちょっと分からないですけど。

【加藤】　時間的なあれ、重いから、よくありますね、IGF のサイトにはそういうことが。

【山崎】　毎年ありますね。

【河内】　ですよね。

【山崎】　タイムゾーンですけど、ログインしておけば。

【河内】　いや、それやったんですよ。上のプロフィールのところからログインしてやったんですけど、何かうまくいかなかったです。よく分からないです。

【山崎】　その前にログインしておく、日本時間になりますね。【山崎注：その後日本時間にならないことを確認し、IGF 事務局に修正を依頼】

ただ、サイトが落ちる問題は、何か去年もおとしも IGF が始まる頃には落ちていまして、多分、だから、アクセスが集中するせいかと私は想像しているんですけども。ですから、先週、JPNIC のほうで注意事項をまとめてブログとして公開したんですけど、そこには、エクセルの表もダウンロードしたほうがいいですよというふうに出しました。例えば、サイトが落ちてもいいように、エクセル表だけでどのセッションに出るか決められるようにしたほうが無難だと思います。

【河内】　でも、これ、ちょっと下のほうにスクロールしていただくと、左側にパーソナルスケジュールというのは、多分、これで自分のチェックしたやつが見られるようになるんじゃないかとは思いますが、それもサイトが落ちちゃうと見られなくなっちゃうんですね。

【山崎】　そうですね、サイトが落ちるときは、そういうパーソナライズする機能が全部丸ごと落ちるので、ログインができないし、そういうパーソナライズした機能が一切見られなくなってしまうので、かなり使えるところは限定されてしまいます。

【加藤】　ありがとうございます。

御質問、いかがでしょうか。

Rafik。

【Rafik】 Hello, not a question but (inaudible) got finally new version.

【加藤】 日本の団体とか会社からのブース登録があまりないみたいだということですが。

Rafik, is that because people are from individual?

【Rafik】 Although in the IGF Village, there are no booths from organizations from Japan. I think they will miss the opportunity. I see only JPRS is listed because they know about IGF process. Cannot see any other organizations (from Japan) here.

【加藤】 どの部分ですかね、それは。JPRS しか載っていないという。

Could you tell Yamasaki-san which site are you referring to? Something like Kyoto Information University like that?

いや、IGF Village ね。Village の方なので、これじゃないですね。

【山崎】 IGF Village に日本の企業が申し込んでいないとおっしゃっていますか。

【加藤】 You are talking about IGF Village, right?

【Rafik】 Yes. IGF Village.

【加藤】 I think there are many registrations from Japanese companies. 西潟さん、お願いします。これ、多分、西潟さんが説明していただくのがいいかもしれないです。

【西潟】 Hello, Rafik. Please let me explain in English. I'll try to speak slowly. The question is about registration from Japanese companies or organizations to the IGF Village? The process is a little bit different. I'm not sure about the other countries' IGF about the Village or exhibition. This time the IGF Secretariat asked the Japanese Government to prepare a Japanese exhibition like we did at the G7 Takasaki (Ministerial) Meeting. Then, I became in charge of organizing the Japan Village. Our team actually had about half of the exhibition space which means about 24, I think, applicants participating for the IGF Village exhibition. For example, NTT, KDDI, Softbank, GMO Internet Group, etc., including some non-profit organizations such as Anti-Manga Piracy Fighting Team, WIDE Project of course, JPNIC, JAIPA, etc. In addition, let me say, The Osaka 2025 Expo Secretariat, some Kyoto-origin manufacturing companies using IT, I mean small companies and startup companies maybe, and we have some exhibition from NHK World, of course, and both of Kyoto Prefecture and Kyoto City making their booths. There are some Japanese kimono exhibitions, too. They are not in a booth but somewhere in the premise. That's the current situation. So you don't have to worry about the presence of Japanese companies or organizations.

【Rafik】 Thanks for the confirmation. So, there will be a venue but maybe separate from the Village?

【西潟】 There should be there. You'll see the Village space. Then, I would say it's a little bit secret, maybe for this moment. Several panels of the manga characters welcome you to the Village. Of course, the agenda is an appeal not to use the pirated copies of those. Thank you for (projecting) the screen. Left up, the blue area is our zone. Of course, the other side is for those who applied via the (UN's) official procedure. I found of course Google and Meta are there. I'm interested in to see (what will be there). Even Lego from northern Europe is there.

【加藤】 (I have a) question specifically to answer Rafik's question: Are you going to update the list of Japanese companies (as exhibitors) you mentioned?

【西潟】 Well, I'm not sure. I can ask the team of the Ministry because those are the totally different tracks.

【加藤】 I see.

【西潟】 Let me say of course JPRS is there but no other Japanese organizations or companies, so long as I know, didn't apply the IGF official procedure. This is the part of the reason, and of course Chengetai got pretty good impression about the Takasaki exhibition. So, those two combine the current situation. We are happy to provide these things to the organizations (and companies).

【Rafik】 Thanks very much. This is good news and I'm looking forward to seeing because it is a good opportunity to show what we have in Japan to promote more.

【西潟】 Yeah.

【加藤】 西潟さん、ありがとうございます。非常にクリアになったと思います。

ほか、御質問とかございますでしょうか。

もし、西潟様からこれ以外にも何か今みたいな情報があれば。特にございませんか。

【西潟】 私個人が出るセッションを言う場じゃないような気もするので、それはメーリングリストに譲るとして、ここの関係でいうと、NRI のいわゆるインターセッションから続いて本番が今回来るわけですがけれども、ここの7番の一部先食いということになるのかもしれないですけど、この中のポリシー・ネットワーク・オン・AI というやつがあって、御縁があってメンバーをさせていただいているんですけど、これのセッションは私がモデレーターをすることになっているんですが、宣伝半分、御関心があれば。何かホールだけデカイところを取っているみたいなので、あんまり人がいないと私も寂しいので、お時間があればぜひ来ていただければありがたいなど。そんなに何かコンピューターサイエンス、コンピューターサイエンスのAIの議論じゃないと思うので、どなたでも、ふらっと来て、え、そうなるのみたいな話、質問でもしてくれれば私はありがたいですが、皆さん、御都合もあるでしょうから、あくまで告知ということで。

【加藤】 2日目でしたっけ、3日目でしたっけ。

【西潟】 3日目の朝一じゃなかったかな。

【加藤】 3日目の朝でしたっけね、はい。ぜひ、二重丸をつけて、皆さん、御参加、御聴取いただきたいと思います。

ほか、御質問ございますか。

今日、岡崎様とか、飯田さんとか御出席いただけなかったんですが、西潟様からも、サイド情報で何かシェアしていただくことは特にないでしょうか。

【西潟】 展示は、今日はお話ししておかなければと思っていたんですけども。

Thanks for the Rafik's question.

それ以外のところは。

【加藤】 特にないですか、今のところは。

【西潟】 ないですかね。一般論というか、ディテールはそれぞれが担当というのがあるのであれなんですけれども、メインセッションと、先ほど河内さんから少しありましたが、スピーカーもそろそろ最終確定、最終化してもらわないと困るという話なんでしょうけど、着実に、いわゆる煮詰まってきた状態にはあるので、メインセッション、あるいは Day 0 の幾つかのセッションというのは、いわゆる総務省の施策紹介の部分もありますので、特にインターネット関係のガバナンス関係でいえば、国連と合同での WSIS+20 に向けたセッションだったりとか、あるいはアメリカ政府との合同、多分、アメリカ政府と言っていいと思うんですけど、アメリカ政府との合同開催の Declaration for the Future of the Internet についてのセッション、結構長い時間を取っていたりするので、いずれも G7 の高崎の閣僚宣言に書いてあるところの延長線としてこの IGF が位置づけられているところなので、御関心の向きの方はぜひというのはあるのかなとは思いますが。

【加藤】 Day 0 はほぼ一日中何か総務省の方がずっと出ていただくトラックがある雰囲気ですね。

【西潟】 何かそんな感じになりましたね。

【加藤】 そうですね。ありがとうございます。5日間はもうびっちりであるということで。

【西潟】 日曜からなので、皆さんの御出張、御用務の関係はそれぞれいろいろあるんだと思いますけれども、総務省、大体ハイレベルの人が、総理も含めて前のほうに偏っているというのはあるので、そういう意味のほうではそれなり以上にちゃんと、手抜きはしていないというのはあると思うので。今からスケジュールの調整が利く方におかれましては御検討いただければありがたいのかなと思います。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。Rafik, are you still raising hands?

【Rafik】 Uh, yeah. I have a question about workshops. I understand there are several sessions organized by the host in Day 0. Will be good opportunities to try to promote them? Different (inaudible)

possible? They want to know other workshops organized by the local community. We need to promote and to give more visibility. So, different organizations use maybe (inaudible) so on to share about the session to invite people. So, we can try to do that if we have a list we can share. But a different issue may be space. If we have that, we can do it quickly for this week So people can put their schedule including Day 0 or for whole week.

【加藤】 Thank you, Rafik.

今の Day 0 の総務省の方が特に企画されている以外にも、日本の方で、ぜひここで皆さんに御紹介しておきたいと、来てくれというのがあればということですが、どうですかね。今、それを個別に言うよりも、活発化チームのメーリングリストにこういうのをやりますから、ぜひとかって書いていただくというのも一つだと思んですけど、今日御出席の方以外にも届きますので。いかがでしょうかね。

西潟さん、何か今御発言しようとされていますか。

【西潟】 そうそう。いや、今日、JAIPA の立石さんもいらっしゃらないからあれだけど、もし。

I'm not sure if I took Rafik's intervention if Rafik can spread and promote leveraging to network to the particular session if you meant that way, I'd say the manga piracy session helped by JAIPA even create a welcome as a publisher, that one we will be appreciated and could do some help. And, then other ones since I am from the government side, maybe in terms of equality, I would agree what Katoh-san proposed. There could be some sessions WIDE Project engaged. For example, Professor Esaki will be on stage for several sessions, but I'm not sure about the detail. On the other side, the IGF Taskforce team organizes some materials. Maybe Yamasaki-san can help.

【加藤】 山崎さん、そういう意味では、前に日本の組織で提案しているセッションと、我々が全部拾っているかどうかは別にして、あと、日本の方がスピーカーの一人には入っているリストをつくっていただきまして、ワークショップに関して。あれをもう一回このメーリングリストに。

【山崎】 ちょっと、今、探しますので、お時間ください。

【加藤】 ええ。このメーリングリストにまた流しますかね。そうすれば、一応、日本のいろんな方が、今、西潟さんが言われたようなセッションは少なくとも入っていたので、それは少し参考になるかもしれないですね。

今、山崎さんがそれを示していただく間に、ほか、御質問とか御意見ございますか。

もし、特になければ、画面がまだですが、山崎さん、どうですか。今の、前のリストが出れば。出そうですね、これですね。これって、このチームが見ていただくようにもできるんですけど。それ、特に問題ないですよ、見ていただくことは。

【山崎】 はい、これは大丈夫です。

【加藤】　そうですね。もしよろしければ、最後のリマインダーで、活発化チーム各位でこれを見られる形でメールの中で送っていただくということは可能でしょうか。

【山崎】　はい、送ります。

【加藤】　日本関係の方が少なくとも、これを全部拾えているかどうか分からないけど、少なくともこれだけは日本関係の方がやっていたらという事で御紹介いただければと思います。

【山崎】　はい。

【加藤】　ありがとうございます。

それでは、アジェンダの次の項目に移らせていただきたいと思います。NRI のアップデートということで、さっき、西潟さんも少し触れられたんですが、これについては山崎さんか河内さん、お願いできますか。

【山崎】　上から順番に行きますけれども。

【加藤】　お願いいたします。

【山崎】　NRI のコーディネーター、連絡役が集まった会議が先週 25 日に開催されて、メインセッションとコーディネーター、コーディネーションセッションのそれぞれ最終確認を行っています。まだその最終結果が一般に見える形では公開されていないようなんですけれども、どちらももう全て決まったとお考えいただいてよろしいかと思います。

その次の 3 つポチがあるのは、それとは別に NRI 共同でコラボレートするセッションが 3 つあって、AI とエマージングテック、サイバーセキュリティ、インクルージョン。さっき、西潟さんがおっしゃっていたのは、ポリシー・ネットワーク・オン・AI なので、これとはちょっと違いますね。AI ですけれども、これはまた別の部屋、別の場所で行われると思います。西潟さんののは、さっきチャットに貼ったように、朝一ですけれども。

【加藤】　10 日の朝 8 時でしたっけね、あれは。

【山崎】　8 時半から 10 時です。

【加藤】　そうですね、はい。

【山崎】　この NRI のほうは、9 日の、だから、Day 1 ですね。

【加藤】　この AI・アンド・エマージングテクノロジーは、モデレーターは別の方になっています。

【山崎】　はい。15 時半から 16 時 45 分です。サイバーセキュリティは 10 日の 11 時から 12 時半で、インクルージョンは翌日 11 日の 11 時から 12 時半ということで、先週木曜日にこのインクルージョンのほうの打合せがあったんですけれども、たしか 15 分ぐらいで終わったんですけど、要は決まっていなかった話者、モデレーターが全て決まったので、そんなに早く終わったということなんですけれども、全て決まりました。

AI とサイバーセキュリティについては、それぞれ、加藤さんと河内さんから御報告いただけますか。

【加藤】 はい。インクルージョンの方、もし日本からの発言者の方であれば。

【山崎】 日本からの話者がいるかということですか。いや、残念なぐらいないです。アジアからは中国の人が参加されます。

【河内】 サイバーセキュリティのほうも、もうほぼほぼスピーカーも決まっていたので、先週の会議はやっぱり 15 分とか 20 分ぐらいですぐ終わりました。やはり日本人のスピーカーはいなくてというふうになっています。

【加藤】 AI とエマージングテクノロジーも同じで、これは AI 中心でやりますけれども、同じ状況です。NRI ですから、日本の方が出て、飛び入りでコメントするとかというのは歓迎されるのではないかというふうに思いますが、時間がどれぐらい取れるかですね、そこは。基本的には 1 時間半ですよ、どれも。

【山崎】 90 分ですね。

【加藤】 そうですね。

NRI に関して何か御質問とかございますか。

【河内】 すみません、NRI じゃないんですけど、MAG が企画しているメインセッションの AI に関するセッションは、先日、日本 IGF に登壇して、AI のセッションに登壇していただいた江間さんが出られる予定だと思います、日本から、スピーカーとして。

【加藤】 ありがとうございます。日本 IGF のセッションも非常に整理してやっていただいたので、これも注目すべきセッションのような気がいたします。

あと、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

次のアジェンダのほうに移らせていただきます。少し前になりましたけれども、IGF の日本会議、京都の前に、京都で参加される方々が事前に日本語で、日本でやっていただく、そういうセッションだったわけですが、これに関する報告ということで、まず、今、資料・録画というのは、これは山崎さんから御説明いただけますでしょうか。いろいろと、あと、整理もしていただいて大変感謝しておりますけれども、山崎さん、お願いできますか。

【山崎】 ここに書いてあるとおりですので 10 秒で終わると思いますけれども、資料と録画は既に公開しております。日本語によるセッションの要約も公開しています。今、英語版を作成中です。こちら、レビューが済み次第、できれば IGF 前に公開したいなとは思っています。それで報告したいことは全てなんですけれども。

今日は御登壇いただいた山中さんがお見えのようですけれども、どうも御登壇いただきまして、ありがとうございました。

【山中】 いえいえ。

【山崎】 非常に大変だったと思いますけど、ありがとうございます。

【山中】 とんでもありません。機会をいただきまして、どうもありがとうございます。

【山崎】 せっかくですから。

【加藤】 御感想か何かお願いできれば。

【山崎】 本番のセッションの宣伝でも。

【山中】 では、宣伝させていただくと、我々のセッションが Day 1 の 3 時 15 分からございまして、ぜひ、皆様、DFFT (Data Free Flow with Trust) の開発というコンテキストでお話しさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひします。グーグルとダイアル(Digital Impact Alliance)という ICT と開発を束ねていきますアンブレラをやっているような国際組織があるんですけども、そこの協調、あそこは国連財団、UN Foundation がサポートしている組織なんですけれども、そこの協調で行うことになっておりますので、ぜひ、皆様、場所はワークショップルーム 4 ということで 120 席あるということなので、ぜひ皆さんに来ていただくと、あまり来ていただけないと寂しいので、ぜひよろしくお願ひいたします。

あと、参加させていただいて本当にありがとうございました。国外の IGF 系は結構何度も参加していたんですけども、今回、日本の IGF に参加するのは初めてでして、ちゃんと皆さん、こんな一生懸命、時間どおりに進んでいるのかって、そこら辺は他国に比べて非常に感銘を受けているところでもあります。

あと、やはり皆さん、いろいろな分野で、今回、IGF が日本で最初に開催されるというところで非常に期待が高まっているんじゃないかということを感じたところというのは非常にありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 どうも、山中さん、ありがとうございます。山崎さんもありがとうございます。

ちょっと付け加えますと、先ほどの日本 IGF の会議のまとめについては、河内さんと河内さんの同僚の堤さんがかなり詳細なまとめをつくっていただいて、その要約版も今回御披露いただいたというふうに理解しています。

それで、英語版もつくっていただいて、山崎さん、これ、英語版が最終的に出たらウェブサイトにも、当然、日本もこういうのがあったというのを載せていただいて、海外にも発信するというイメージでよろしいんですね。

【山崎】 はい、そのとおりです。英語版のレビューは、今日御参加いただいている Rafik さんにお手伝いいただくことになっています。

【加藤】 そうですね。Rafik-san, thank you very much.

【Rafik】 No problem.

【加藤】 ということで、非常にこの会議は充実して中身も非常に分かりやすかった、日本人にはですね、内容かなというふうに思います。

何かコメントとか御質問等がございますでしょうか。

もしなければ、次の議題に移りたいと思います。

次の議題ということで、本チームの今後というのがありますけれども、先ほどのタスクフォースの状況報告にもありましたけれども、前回の会合で私から、京都会議以降、この活発化チームをどうするかについて考え始めていきたいという御提案をさせていただきました。ここに書いていただいたような内容で、そのときにも特に異議なく、その後も、検討するという事だけですから、特にその後も異議はなかったのかなと思います。

できましたら、今日、どうするという議論をするのではなく、京都会議でいろんな様子を見ながら、実際、京都でお会いした方々とも話をする機会もあるかと思えますし、さらに、タスクフォースのほうも今後動きがあるかもしれないということで、予定している京都会議以降の第1回、10月30日の会議、またはそれ以降にこのことを継続して検討していきたいというふうに思います。

前回御提案した内容は、京都で終わりということではなく、この活発化チームの名前自身が2023年の京都会議を活発化するということが最終目的のように見えるので、そうではなくて、次回以降も継続するということが前回の提案の趣旨でありましたので、継続的に皆さんで今後のことについて議論していくということを御提案したいと思います。

ということで、何か御意見ございますでしょうか。

高松さん、お願いします。

【高松】 高松です。前回のほう、参加できず、すみませんでしたというので、メモのほうも拝見しながら、今日、参加が別件でできていないんですけど、堀田とも話をしまして、活発化チームとしての今後を考えるという部分もあると思うんですけども、その前に、その前に並行してなのかもしれないんですけど、一応、この活発化チーム自体がIGF 2023に向けてというふうにつくられたというのもあり、活動の総括みたいなようなことはしたほうがいいんじゃないかというふうに話をしていました。

総括というか、振り返りの中で出てくるとは思うんですけども、この活発化チーム自体というのがもともと、ボランティアな人たちが集まっただけでは厳しいねといった議論をしながら、NRIをどうしていこうといった話もそもそもして、その中でタスクフォースといった活動、それはそれでできてきたというのがあったかと思うので、そういった、今回、タスクフォースもできてみた、それを踏まえてIGF 2023というのが起きた、それも踏まえて活発化チームとしてはどうこの状況を見るのかといった辺りは振り返って、それを踏まえて、今後どうしていくのかといった辺りを議論する場として

この活発化チームがいいのか、もうちょっと違った形にしなきゃいけないのかとか、そういった議論をしたほうがいいんじゃないかなと思っております。

ちょっと一歩進んだ話になってしまうんですけど、少なくとも、結構この活動に参加してきたとか、ミーティング等に顔を出させていただいている私や堀田としましては、やっぱりこういった NRI といった形で何らか活動を今後継続していく、そういった議論をするのであれば、この活発化チーム、どうしても人が偏っているというところがあるので、そういうところがもっとマルチステークホルダーな方たちに御参加いただけるような方法はないだろうかといったところを考える必要があると思っていますし、あとは、継続的に会員になっていただくという点。あとは、継続的に会費のような形で何らか信頼できる事務局を設けるといった、そういったお金も必要になってくるんじゃないか、そういった辺りは、継続的に活動するという上では考えないといけないポイントになるのではと思っています。これはもう何か3年前ぐらいに話した、出てきた内容かと思うんですけど、改めて、今回、議論のポイントにまたなるのかなと思っています。

なので、そういう意味では総括を、あまり、そちらのほうは別に IGF 京都が終わるのを待たずにでもできる部分はあるのかなと思って、この場で発言させていただきました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。総括というのは、よかった、悪かったとか、そういうことなんでしょう。何がよかったとか、何が課題だったとか、そういう意味でしょうか。

【高松】 はい、そうです。イメージでいうと、昔、この活発化チームを立ち上げるときに、こんなことが、資料がたしか、何か JPNIC のページでしか見つけられなかったんですけど、日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題とって、今、チャットにも投げたんですけど。この活発化チームの皆さんとかでも確認をしながら、こんな感じですよねとうまくいろいろやってみたけれども、難しいこともあってみたいなのという。これの経験と課題を踏まえて、今回、活発化チームというのは活動を始めていると思っています。ということ。

【加藤】 すみません、ちょっと声が途切れたんですが、この経験を踏まえてというところから。

【高松】 今、チャットの方に送られた Japan IGF の URL、ありがとうございます。ということで、この経験と課題、ボランティアにいろいろやってきて、難しいねみたいな意見がたくさん出てきた部分を踏まえて、みんなでこの資料というのをまとめてつくり上げて、これで認識、一応、一致しているよねといったものになっていると思うんですけど、これに、今回、IGF 2023 をやってみてというのを付け加えるような形を私はイメージしていました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。まさにそういう、今、こういう課題があつて、こういうことをやってきたけど、こういう課題があつたというようなところから今後どうするかという議論が始まると思いますので、ぜひ、そういう意味では、過去にもやったことの延長で、こういう分析を、振り返りという意味で議論して、それをスタートに今後どうしようかという議論になるのかなというふうに思います。ありがとうございます。

前回私が提案したのは、今のままいくと、何か名前からして、もう京都で終わりで、活発化チームはその後なくなってしまうのかという、そういうことを思われる方がいたので、そうではなくて、今後どうするかというようなことを議論しながら、当面継続しますと。この先がどう、もうやめることも含めて何も決まっていないので継続をしますということを御提案して、一応、異議がなかったというふうに理解していますので、まさに高松さんが言われたようなことも継続して検討するというので。もう京都会議以前はもう今日が最後ですから、やはり現実的には京都会議が終わった後、いよいよ、今後どうしましょうかというところに入っていくのかなというふうに思います。

それと、前回提案したのは、京都会議の報告会というのもやりたいということによって、それも特に異議がなかったもので、どういう形でやるかはまた次の会議以降の議論になりますけれども、何らかの、反省会になるかもしれませんけれども、京都会議の報告会というのをやったらどうかということも御提案させていただきました。

ということで、高松さんが御指摘いただいたことはもう全く 100%そのとおり、アグリーだと思えます。

ほかの方はいかがでしょうか。

今日はまだ深く議論するところまで準備ができていないとは思いますが、ぜひ、京都を見ながら、この後、日本はどうしようということで、次回以降、活発な議論をしていただければと思います。

西潟さん、お願いいたします。

【西潟】 ありがとうございます。高松さんからこれを出し、私もこれはもう穴が空くほど読ませてもらったので、今までの経緯は分かりました。私、2022年の着任なものですから。1年ちょっとの間、いろいろとこういったところに顔を出させてもらって、必要だと思ったときに発言をさせていただきましたけれども、今日も直前ということもあって、お忙しい方も多くて、いつもいる人の中でもない人がいるのかもしれないので頭出し以上のことはしませんけれども、多分、今回、ホスト国だったこともあり、河内さん、加藤さん、山崎さん、NRIの活動にも、私も含めて、私はどっちかというサブが多かったからあれですけど、参加をすることもできて、NRIはなくなっちゃ困るんですよ。

これは全然、私個人の感覚で、例えば総務省が公式見解としてどうこうとか、そういう話まで上がる話ではないと思うんだけど、IGFというものが2025年の先もあるという仮定、前提とまでは言えないのかもしれない、少なくとも仮定に立ったときに、日本のNRIがこれでいいのかというのは、データ通信課としては問題提起をさせていただきたいと今でも思っていて、その意味では、大分、今回は京都会合ということもあったので、リアルにどんなものなのかとか、よその国はどういうふうに行っているんだみたいな、今の段階では情報は少ないかもしれないけれども、少なくともコーディネーションに参加いただいたお三方から、各国のNRIから来ている人たちへの少なくとも連絡先ぐらいはあるでしょうから、お話を聞いていただくようなことがあってもいいと思うし、それをもって日本のNRIの、そんなに、何か世界で一番人数が多くてとか、何がすごくてみたいなNRIである必要はないんだけど、少なくとも、NRIがない日本というのはあり得ないと思っていて、だからこそこういう活発化チームも

含めて皆さんも御参加いただいているんだと思うし、我々も業務の一環で参加させていただいているわけで、その部分に最後は尽きるのかなとは思っているんですね。

ここの活発化チームのメンバーって、今、200人ぐらいですかね、いらっしゃるのは。

【加藤】 273人とか出ていましたね、登録している人はね。

【西潟】 だから、これ、全員でコーディネーショングループをつくるわけにはいかないんで、その中からコーディネート、NRIの業務って、多分、相当あるはずなんですよ、真面目に拾っていくとね。なので、その中でそれに、業務に耐え得る人だったりとか、あるいは、これまではJapan IGFのコーディネーショングループに名前が載っていらっしゃる人では、総務省でもうちの田畑が入っていますけれども、当時の充て職のまま変わってなくて、田畑がデータ通信課に戻ってきたというのが本質なんで、実はね。そういう感じなわけですよ、率直に申し上げたら。その部分というのはどう改めていくのかということも含めて。

直近に関しては、その活発化という言葉が正しいかどうかは分からないけれども、サウジアラビアでの2024(年開催)というのはあるはずなので、そこを視野に向け、入れて何かやっていくというのも一つの在り方でしょうし、京都が終われば、サウジアラビアに向けて、ジュネーブのIGF事務局との間でのNRI、特にコーディネートしていただいて、お三方を中心にやり取りは継続してあるはずなんで、その部分の何か流れにうまく乗られるような形でこの議論をすれば建設的なのかなと思います。

もちろん、高松さんがおっしゃるような総括、大事ですけど、多分、問題の本質的なところは何ら変わっていないと私は見ていて、1年ちょっとなんで、この業界の若輩者が言うにはちょっと失礼な言い方かもしれないけれども。なので、少しその観点を変えてみて、少なくともこれはやらなきゃいけないからとか、今まで、多分、そういう議論はしていないと思うんですけど。

あとは、どなたか、高松さんだったかな、どなたか、マルチステークホルダー性の話も、これはどうしようもないと個人的には思っています、率直に言って。今の段階でマルチステークホルダーじゃないと言われるほどのマルチステークホルダーじゃない状態ではないと思っているんで。

例えば、インターネットのオペレーションをやっている人が一人もいないIGFのコーディネーショングループというのはあり得ないと思うんですけど、それは少なくとも高松さんがいるから大丈夫でしょうとか。という母体の意味からすると、何か逆に言うと、今回、京都が一つのメルクマールといますか、ターゲットポイントだったんでしょけど、次、サウジとするのかどうかも、これはみんな決めていただいたらいいと思うんですけど、そのためにNRIを一番上に置いて、Japan IGF、本当の意味でのJapan IGFをどうするのか。その中から多分いろんな問題が出てくるんだと思います。

例えば、IGFだとICANNと違って利害関係がないんで、やっぱりボランティアベースにならざるを得ない。そうすると、当然、民間企業の方は業務として定義できないですよ、みたいなのが多分本質的にあって、それこそアカデミアの方も、このレポートを中心に編纂された方も含めて、別のところでキャパを食われてしまうと、本業と副業みたいな話にならざるを得ないとかね。じゃ、そ

こって解決の方法はあるんですかとか。あるいは、業務にこれを組み込める人がいらっしやるのかとか
みたいなところは、リアルな部分との整合性も必要になってくるし、そういうところは検証の要素の中
心であるべきだと私は思っているんですけど。

そういったことも含めて、今日はまだ京都は終わっていません。始まってもないんですけど、
なのであれですけども、少しずつ頭の、逆に言えば、そういう問題意識を持って京都を見ていた
だけるといいのかもしれない。特に、IGF の会合、ここにいらっしやる方はもう何回も出ていらっし
やる方が多いんでしょうけれども、もしそうじゃない方もいらっしやれば、そういう目でこのイベント、
そもそも国連のイベントなわけですよ。国連の領土になるみたいな、何か頭の中では理解できるんだ
けど、リアルにどうなんだみたいな話から始まるわけですよ、実際。

セキュリティーの人間だけは腐るほど会っていますけど、日本の警察感覚じゃあり得ないぐ
らいなんですけど、そんなところから始まって、いわゆる、体感、もちろん、オンラインの方も含めて
だけど、体感していただいといるところからこの議論というのをさらにより、半分はリアルベ
ースで、半分は理念ベースでみたいな感じでやっていっていただくのがいいんじゃないかなと個人的には
思っていますけれども。

【加藤】 ありがとうございます。力強いお言葉をいただいて、大変心強い気がします、皆さん、い
かがでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 方法論というか、そういうことはまだその段階ではないのかなというところで、今日はちょ
っと、いわゆる主要メンバーの方もいらっしやいませんので、議論そのものに入ることじゃない
のかなと私は思っているんですけども。

今改めて高松さんが示していただいた PDF も見ましたけれども、やっぱり歴史的に長年活
動してきて、いろいろ試みた、いろいろな主体で試みたものの日本としてのナショナル IGF はないとい
うところで、結局、参加者もばらばらというところにいるというのが、そういう感触ではあるんですけ
れども、改めてそれを、そういう IGF に関連して、関係してきた人たちを再結束させていくというこ
も考えないといけないし、なおかつ、そもそも何をやりたいのかということですね、この現の活発化チ
ーム。側面的なこういう日本での IGF という考え方についてもっと広めていくという、より広報的な部
分になるのか、そうじゃなくて、ナショナル IGF として、日本の IGF として、日本を代表できるような
立場になっていくのか。じゃ、そもそもタスクフォースのほうがどうなっていくのかは現状で分からな
いわけですけども、それとの関連性はどうなのかとか。

既存の Japan IGF とか、何とかとかといういろいろなものは、結局、IGCJ にしても動いてい
ないわけなので、結局、実質なくなったというか、実質、開店休業状態なのかなというふうに思ってい
るんですけども、そことの関連性もどうなるのかということも考えていかないといけない、立ち位
置も考えていかないといけないと、そういうところが幾つか課題があるのかなというふうに思っていま
す。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

西潟さん、よろしく申し上げます。

【西潟】 ありがとうございます。いや、今、本田さんがおっしゃったことは本当に的を射ていて、私もあのレポートを読んで思ったんだけど、逆に過去のもの全部を御覧になっていらっしゃる方で、いや、おまえのその見方はおかしいというような指摘は喜んでお受けしたいんだけど、私はそういう意味じゃリアルじゃなかったんで、IGCJ なんかアクティブだった頃、別の部局で仕事させてもらっていたのであれだったんですけども、やっぱり、今、本田さん、いみじくも言われたからあれですけど、かぶせちゃうんだけど、IGCJ のときの議論が一番、あれ、私、ホームページで全部見させてもらいました。JPNIC さんが非常によくまとめてくださっていて、過去の経緯から全部、月日がたってもブラウザできる状態で収めていただいているありがたいんですけど、一通り全部見ましたけど、やっぱり、多分、今日の段階では皆さん、来ていただいている方には私の勝手な意見をお聞きいただくことになると思うんですけども、IG と IGF を分けるのかどうなのかという話がまずあるんですよね、私の予想では。

どういうことかという、IGCJ の盛んだったときというのは IG しか議論をしていないんです。もちろん、IGF はありましたけどね。あそこは IG を議論して何をやってたかという、IANA 契約、アメリカがもう終わりにしますというときに、インターネットに携わっていた人たちからすればこんなにかい自分事はないわけですよ。

だから、あそこでたくさん議論して、それこそ、総務省もあのときはアクティブに参加させてもらってましたし、当時のデータ通信課の担当ですけど、させてもらって、IANA 契約の終わりのときに、ICANN が生まれ変わるというか、今の形の ICANN になるときにもペーパーは出しているわけですよ、たくさん。そういうようなことをやっていたのが IGCJ で、まさに IG をやっていたところなんです。

多分、その頃の IGF は私は存じ上げない、私が IGF に行き出したのは 2017 年からなんで、あれですけども、あのときの IGF と今の IGF は多分対象が全然違って、今の IGF の中でインターネットってむしろマイノリティーなんですよ。一番、今、トピックとして上がっているのは AI でしょう。数年前はブロックチェーンも対抗して出ていたわけです、エマージングテックというくりでね。

もちろん、インターネットガバナンスのコアな部分、特にグローバルな場合だとグローバルサウスの話は絶対出てくるし、このコネクティビティ、アクセシビリティというのは出てくるんですけども、何か私に言わせると、もう脇に追いやられちゃっているような、訳の分からないというと語弊があるんですけども、少なくともインターネットガバナンスを中心にしているイベントではもうないですよ。

だから、そういった意味で、今までの経緯からすると、IGF の National Regional IGF の団体としての Japan IGF があるわけで、そういった変化も踏まえて、じゃあ、IGCJ がやっていた頃のように、この IGF で議論されることを自分事でこの IGF の、要するに論文を発表する場でもないし、ICANN みた

いに何かしら別の関わり方があるような場所でもない中で、いわゆる業務として関わっているという場所でもない。率直に言えば、言いつ放しの場ですから、何かを決めるところじゃない。そういう意味じゃ、政府関係者からすれば、このイベントは、G7 や G20 と大分違うところにあるんですね。

それこそ、ちゃんと来られればですけども、総理が来るイベントという意味じゃ、国は相当大変なんですけれども、他方で、やっぱり G7 とは大変質が違うんですよね、中身に関してはね。決して楽とは言わないんだけど、大分ベクトルが違う、方角が違うという意味では異なるイベントなんですよね。

なので、多分、民間の方からしても、IETF、ICANN とも大分違うんですよね。そういった意味でこの IGF をどう捉えて、その中で、でも NRI は必要ですよと。

逆に言うと、だから、データ通信課としては、当然、今もコーディネーショングループに 1 人、田畑という人間が入っていますけれども、そうしたところまで含めて、やっぱり IGF をまず見てほしいんです。見ていただいた上で今の私が申し上げていることについてどう感じるか。

例えばの話で、国連がわーっとやるイベントだとどうしても発散するよねと。そこにどこまで付き合うべきなんですかみたいなのは一つの問題提起だし、他方で、IGF というのは国連の経済開発部局と直接つながっているのも、そういった意味では、国連の中心にまでものが届くかもしれないので、やっぱり関わっておくべきなんじゃないかという、一地球市民としても、あるいは日本国民としてもね、みたいな本質的な理念的な議論と、さはさりながら、じゃ、そのところで、例えば NRI のコーディネーション、加藤さんなり、山崎さんと河内さんに参加いただいていますけれども、特にその中で、じゃ、どこまでリソースとして充てられるのか、あるいは制度的に業務として定義できるのかみたいなところというのは、なかなかこれも、簡単に、ああ、いいよ、任せるよと言ってくれる組織だけじゃないと思うので。

これが、例えば ICANN だったりすると、自分の会社なり、所属する組織なりの利益に直接関わることにについて自分事ではいけるわけですよ。その定義は漫画の海賊版だと理解していて、もろに権利を侵害されているわけですから、どこでも何でもという話だと思うんですよ、もう本当に自分事になると思うんですけど。それと同じような感覚でインターネットに向き合う、あるいは IGF というイベントでもそうです。特に NRI の議論をするときは IGF というイベントも出なきゃいけないし、他方で、本田さんが引き合いに出された IGCJ なんていうのはむしろインターネットガバナンス、IG の議論なわけですよ。

他方で、今の IG には何も問題がないかというところもそういうわけでもなくて、そういう意味では、IG を議論したいのか、IGF に関わりたいのかというのは一つ、ある意味では両方取れると思うんですよ。アンドを取るということはできると思うんですけども、何となく最小公倍数的にアンドを取っちゃうとすごく発散しちゃうと思うので、そのところはフォーカスをしっかりやった上で、そういう意味ではエマージングテックも大事だし、グローバルサウスとの関係も大事だし、いろんなところでみんなつながっているじゃないですかみたいな感覚というのは多分そこに参加していただくのが一番早くて、それこそ言葉を選ばずに言えば、セッションの質だってピンキリなわけですよ。

先ほど、山中さんですかね、おっしゃっていただいたとおり、時間の話とか、まずそこで日本人はずっこけるんですよね、率直に言うと、国際会議に行くとかね。日本の国会ぐらいですよ、本当に定刻に全てが、当然、国会もそうじゃないときもあるんだけど。あるいは、この会合では毎回5時に定刻に始まるので、よその国際会議ではあり得ないというのが私の考え方で。それは日本人の virtue、美德の部分だから、そこら辺はどんどん、むしろ海外の人間にも知らしめてあげるべきところなのかもしれないんだけど。

そういったことも含めて、まずは体感していただきつつ、今、私がお示したようなところの感覚から、観点からそのイベントを見ていただくと、これまで関わってこられた方はさておきとして、そうじゃない方は特に、私が今申し上げていることというのは、少しはぴんと来ていただけるのかなと思ったので、せっかくの機会なので幾つか申し上げました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

何か西潟さんにきれいに問題点を指摘していただいて、今後の議論を進められそうな気がしましたけれども、御意見、御質問ありますでしょうか。

ぜひ、こういうことを議論しながら、例えば京都でお会いしたら、そういうことを立ち話でも何でも結構です、議論していただいて、次回の会議には、ぜひ、もう少し前に進める議論を展開できればなというふうに思います。

ということで、本日のアジェンダは大体これでカバーしましたけれども、何か言い残したこととか、京都会議の前にこれだけは言っておきたいとか、そういうことはございますでしょうか。特にありませんか。

ということであれば、一応、この会、次回は10月30日に開催するというので決定をしておりますので、異議がなければ京都の後、10月30日に次回、同じ時間、5時から開催させていただきたいと思います。

繰り返しになりますが、特に追加の御質問、御意見ございますか。

それでは、もしなければ、今日も長い間、大変ありがとうございました。

どなたか。

【山崎】 山崎ですけれども。

【加藤】 お願いします。

【山崎】 Todo 確認ですけれども、今日の会議の Todo としては、9番の本チームの今後について皆さん、考えてきてくださいねぐらいでしょうか。

【加藤】　そうですね。マイナーなのでいうと、今、山崎さんがあれですけど、京都会議の日本関係の参加者のリストを展開していただくことと、それから、ここにいらっしゃる方々でぜひこのセッションは聞いておけとか、そういうのがあれば京都に向けてメーリングリストに書き込んでいただければ御自由にどうぞということです。

ということで、よろしいでしょうか。

それでは、ぜひ、皆さん、京都でお会いしましょう。今日もありがとうございました。失礼いたします。ありがとうございました。